

会 議 録

会議名 (審議会等名)	第 2 回相模原市広域交流拠点基本計画検討委員会		
事務局 (担当課)	都市建設局広域交流拠点推進担当 電話 042-707-7047 (直通)		
開催日時	平成 2 4 年 5 月 1 7 日 (木) 1 8 時 0 0 分～1 9 時 4 5 分		
開催場所	サン・エールさがみはら 1 階 多目的室		
出席者	委員等	委員 1 7 名、オブザーバー 1 名 (別紙のとおり)	
	事務局	7 名 (都市建設局参事、都市計画課長、交通政策課長、都市整備課長、土木部参事、産業雇用政策課長、商業観光課長他)	
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	4 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	1 あいさつ 2 議題 (1) 検討の進め方について ・「広域交流拠点基本計画検討委員会の設置及び運営に関する要綱」の改正について ・広域交流拠点基本計画検討の進め方について (2) 広域交流拠点における圏域設定の考え方について 3 その他		

審 議 経 過

出席委員数が定足数に達していることを確認後、議事に入った。

主な内容は次のとおり。(□は会長、○は委員、●は事務局、■はオブザーバーの発言)

(1) 検討の進め方について

事務局から議題について説明後、質疑応答を行った。主な発言は次のとおり。

- 広域交流拠点基本計画検討委員会の設置及び運営に関する要綱（修正案）の第2条について、新旧対応表と修正案との表現が異なる。どちらが正しいのか。
 - 新旧対応表の方が正しい。
- 検討委員会の使命とは、広域交流拠点基本計画の素案を作るところまでではないかと考える。要綱第2条、第3条については、「基本計画（素案）」と明記してはどうか。
- 市が責任を持って計画を確定することが明確であれば、敢えて素案という具体的な表現を用いず、今のままの方が柔軟でよいのでは。
 - 検討委員会は計画そのものに対する議論を行うものでもあるため、敢えて「素案」という表現までは必要ないと感じる。
- 検討の進め方（案）では、リニア駅周辺整備構想の検討が、平成25年度以降の議題とされているが、検討委員会における検討内容は、その都度状況に応じたフレキシブルなスケジュールとすべきではないか。
 - 2カ年にわたる検討スケジュールとし、その中で各回の議題はフレキシブルに対応するという方向で理解いただきたい。
 - 要綱については、第2条を新旧対応表に整合させるという点のみ修正を施して、成案とする。検討の進め方については、時間的な区切りを現段階で決めるのではなく、周辺状況や議論の成熟度を見ながら検討していくこととする。

(2) 広域交流拠点における圏域設定の考え方について

事務局から議題について説明後、意見交換等を行った。主な発言は次のとおり。

- 広域交流拠点における圏域やポテンシャルについて、それぞれの立場からのご意見をいただきたい。
- 相模原市の商業は、年間商品販売額は大きいですが小売吸引力は1を割っており、他地域に消費者をとられているのが実態である。競争力を高めるためには、差別化できる産業を市の目玉とすべきである。
- 各分野における強化すべき機能として、例えば業務機能ではデータセンターが挙げられている。首都圏の中でこのような機能は、現状としてどのような立地が

見られるのか。他地域との比較など、どのような想定を踏まえ整理したのか。

● 本市は地盤が強く、相対的に災害危険度が低い区域であることから、データセンター等を含めて首都圏機能のバックアップ機能の拡充が目指すべき方向性の一つと考えている。

□ 各機能については、他地域との比較ができるデータを踏まえて今後議論をすべきであり、作業を補強してほしい。

○ 津久井湖、相模湖方面への観光客数が年間約1千万人との記載があるが、出典を示してほしい。

● 本市では、平成20年に観光振興計画を策定しており、その中で平成18年の統計データとして、観光客数を示している。

○ 1千万人の観光客に、地域での消費額をいかに増やしてもらうかが検討課題である。

○ 環境や電磁波の影響などから、リニア建設の凍結を求める要望の動きなどがあると聞いたが、計画への影響は

■ リニア中央新幹線のプロジェクトは全社一丸となって取り組んでいる。現在、環境影響評価を進めており、取りまとめができた段階で環境影響についてはご説明したい。電磁波に関する問い合わせなども受けているが、説明不足から誤解をいただいている部分については、逐次丁寧に説明してまいりたい。

○ 強化すべき機能として、商業機能ではアウトレットモールやフードテーマパークが挙げられているが、(市民レベルでみたときに)これらの機能が広域交流拠点として果たしてふさわしいのか。また、交流という観点からは、ハコモノを増やすだけではなく商店街の活性化も課題として、な交流機能を考える必要があるのではないか。

○ 経済から見ると、インフラ整備によるストロー現象が懸念される。都心には、渋谷や六本木のような文化産業都市としてのコンセプトが明快な都市開発がある。一方で、大阪駅北地区では、先端の情報技術を生活や産業に取り込むことを謳った新たな都市開発が進められている。このような特徴ある都市開発に挟まれ、相模原は人口が減ってしまう可能性もある。単なる導入機能のレベルではなく、例えば文化産業・文化都市を目指すとか、先端技術と生活を結びつける部分に特徴を持たせるとか、宇宙というキーワードにももう少しカラーを持たせるなど、コンセプトを検討すべきではないか。

○ 圏域設定を検討するのであれば、求められる機能を性急に導き出すのではなく、データを踏まえて議論をすべきである。また、広域交流拠点の方向性についての議論も深められていない。5つの方向性について、広域交流拠点が果たすべ

き役割として妥当かどうかさらに検討を重ねるべきである。

防災、環境・エネルギー、福祉、交通、土地利用といった様々な分野を横断する戦略や、狭いエリアではなくオール相模原という観点からの戦略は重要であると考え。そのような枠組みや議論の前提を継続的に示していただき、地に足の着いた議論をしていきたい。

- 神奈川県では、進出企業が減少している。一方で増加しているのは静岡や群馬などの地域である。神奈川県内はまとまった土地がない、地価が高いことに加え、環境アセスメントの要件が他の都道府県に比べ厳しいという指摘もある。産業政策の観点から、さがみ縦貫道路の開通や、相模総合補給廠一部返還予定地における産業用地や研究所用地としての可能性に期待している。

また、現在、県では環境影響評価制度の条例の見直しについてパブリックコメントを実施している。

- 県の総合計画であるランドデザインの中で、リニア中央新幹線駅を北のゲート、東海道新幹線の倉見新駅を南のゲートとして位置づけている。県の東部に重心があった構造を、県央に徐々にシフトさせたいとの思いもある。橋本駅・相模原駅周辺地区は、重要な役割を果たすことになるので、ぜひ一緒に検討していきたい。

- 観光の圏域は、受け皿としての観光地域の拡がり、マーケットがリニア中央新幹線によって拡がるという二つの考え方がある。前者の場合、品川からリニア中央新幹線を利用し、橋本経由で熱海や大山や箱根に行く人はいないと思われる。そこまで手を広げるよりは、市内の相模湖や津久井湖をきちんと受け皿にした方が良いのではないかと。

- 観光の競争力の向上を目指すのであれば、自然の中の都市型テーマパークや、自然環境と連携するような自然のミュージアムなど、地域資源との関係の中で、拠点における観光の機能を導く必要がある。

- 観光の圏域については、リニア中央新幹線の山梨県駅との関係を考慮し、秩父の方面へ伸ばすような考えがよいと思われる。

また、報道では、北関東横断自動車道の整備効果は3兆円ともいわれている。さがみ縦貫道路の効果が早期に発現するよう努力したい。

- いかにしてこの地域を特徴あるものにしていくかについては、先を読む力が必要となる。データの裏付けを踏まえ、今後の議論を深めていきたい。

第2回広域交流拠点基本計画検討委員会 委員出欠席名簿

No.	区 分	備 考		出欠 (代理出席)
1	学識経験者	岸井隆幸	日本大学理工学部教授	出席
2		屋井鉄雄	東京工業大学大学院総合理工学研究科教授	出席
3		飯島泰裕	青山学院大学社会情報学部教授	出席
4	市民等	田所昌訓	相模原市自治会連合会会長	出席
5		座間 進	相模原商工会議所専務理事	欠席
6		齋藤邦雄	相模原市観光協会副会長	出席
7		櫻井正友	市民公募委員	出席
8		宍戸和夫	市民公募委員	出席
9		渋谷隆宏	市民公募委員	出席
10	公共交通事業者	伊藤喜彦	東日本旅客鉄道株式会社横浜支社企画部長	代理出席 (総務企画室副課長(仲手川仁志))
11		小柳 淳	小田急電鉄株式会社交通企画部長	出席
12		高橋泰三	京王電鉄株式会社計画管理部長	代理出席 (本荘課長)
13		三木健明	神奈川中央交通株式会社運輸計画部長	代理出席 (計画課付 明石氏)
14	国・県職員	中村正次	国土交通省関東地方整備局企画部広域計画課長	出席
15		荒木智彦	国土交通省関東運輸局企画観光部交通企画課長	出席
16		野田久義	県商工労働局産業部産業立地課長	出席
17		青木 崇	県県土整備局環境共生都市部環境共生都市整備課長	代理出席 (宮本誠也課長代理)
18		三枝 薫	県県土整備局環境共生都市部交通企画課長	出席
19	公安委員会	津村優介	神奈川県警察本部交通部交通規制課長	欠席
	オブザーバー	二村 亨	東海旅客鉄道株式会社中央新幹線推進本部企画推進部担当課長	出席